



# 子ども大学学生新聞

第19号  
子ども大学  
かわごえ新聞部

## 戦争をなくすにはどうするか

### 池上彰先生が質問しながら授業

十一月十五日(土)、東京国際大学第2キャンパス2311教室で東京工業大学の池上彰教授による「なぜ、戦争が起こるのか」という授業がありました。出席者は四年生五〇名、五年生二六名、六年生五九名の計一四五名と、保護者はいつもより多い九五名、きょうだいは二七名でした。



一時間目は、「なぜ戦争は起こるのか」について考えました。まず先生は学生に

「なぜ戦争が起きるのか」意見を求めました。その中には、「土地を広げたいから」「石油の奪い合い」などの意見が出ました。

そこで池上先生は「論拠」という言葉を説明しました。「論拠」とは、証拠がなければ人を納得させることができないという意味です。そして、「思い付きで言っていることは、証拠がない。証拠がないということは、相手を納得させられないことなんだよ」と教えてくださいました。

そこで先生はあらためて戦争が起きる理由について学生に質問しました。学生から「自分が住んでいる領土を広げるため」「燃料確保のため」「考え方の違いによって」「食料のため」などの意見が出ました。

先生は「エネルギーになるものは？」と質問しました。学生から「石油」や「ウラン」「風力」など様々な意見が出ました。先生は日本にたくさんあるエネルギーとして「地熱エネルギー」をあげまし

た。火山大国の日本は、地熱エネルギーがたくさんあります。

次に、どのような種類の戦争があるのかについて質問がありました。そして先生は、「戦争は、結局は自分の国が豊かになりたいからするものだ」とおっしゃいました。

そこで先生は、ある四文字熟語を紹介しました。それは「我田引水(がでんいんすい)」でした。これは、自分さえよければ自分の都合で勝手にやる、つまり自分勝手ということです。これが戦争にとっても似ていると先生はおっしゃいました。(川村弘希記者||中央小6年)

#### 外国に友だちをいこう

二時間目も一時間目に引き続き、Q&A方式で始まりました。最初の質問は「戦争を無くすには？」というものでした。学生からは「世界を一つの国にまとめてしまう」「仲が良くない国の間に第三者が入る」などの意見が出されました。「国と国の間にある島は二つに分割する」という意見も出ました。これについて先生は実際にロシアと中国の間で成立していると話されました。「同盟をつくる」という意見には、ヨーロッパでEU欧州連合ができるなど、いろいろなことが実現できているそうです。

先生は結論として、「世界を一つにまとめるのは大変。なので、一人一人が外国に友だちを作り、もしその友だちがいる国と戦争をするようになったら、戦争したくないと思えるような信頼関係をつくるのが大切」とおっしゃいました。一人一人が「戦争をきつと減らせる!」と思いがちな努力を重ねていくと、きつといつか、世界から戦争がなくなると思

いました。(十重田妃菜記者|福原小6年)

#### 池上先生へのインタビュー

Q なぜこのテーマを選んだのですか。  
A 酒井理事長の注文です。  
Q 子どものころ好きだった教科は何ですか。

A 国語。本を読むのが好きで、お母さんに「本を読みすぎ」と言われました。国語の教科書をもらって、その日に読んでしまいました。

Q 子どものころ好きだった遊びは何でしたか。  
A ドッジボールや野球、かんけりだね。

Q 子どものころ、だれにあげられていましたか。  
A シュバイツァー博士です。アフリカで病気で苦しんでいる人を、生がいをささげて助けようとしたのが、すごいと思いました。

Q 将来はどんな仕事をしたかと思いましたが。  
A 地方で働く記者になりたいです。  
Q 子どもに一言おねがいします。  
A とにかく、たくさん本を読んでください。将来の夢の参考になるからです。

(太田優貴記者||大塚小4年、竹内瑠菜記者||高階西小4年、山口航記者||中央小6年)

#### 学生の授業感想

大塚小5年・山本真綺さん「いろいろな意見がありました。池上さんの授業は他の先生と違って面白かった」(浅野玲子記者|杉下小6年)

月越小6年・岡田里子さん「先生の質問への答えに対して、関連した知識などをくわしく教えてくださり、よかったです」(深見美空記者「福原小5年」)

◇鶴ヶ島栄小5年・坪川悠さん「戦争のことをたくさん知ることができて、よかったです」(大和日菜記者「星野学園小5年」)

◇鶴ヶ島第二小6年・かわさきれいこさん「戦争の原因にエネルギーが関係していることがわかりました」(新井穂花記者「高階西小4年」)

☆記者の授業感想

浅野玲子記者「杉下小6年」池上先生の授業を受けて分かったことは、戦争は豊かになりたいから争つていこうとです。このような争いは、普段の生活にもありえると思います。では、争いや戦争を無くすにはどうすればよいかというのと、私はすべての国をスイスのような永世中立国にしちやえばいいと思います。また、池上先生がおっしゃったように、外国の人と友達になり、信頼関係を築くことも大切だと思いました」

浅野玲子記者「杉下小6年」私は、この授業を聞いて、戦争をなくすには、相手との信頼関係が大切なんだと思いました。いま日本は戦争をしていませんが、まだ戦争をしている国もあるから、その国同士、信頼関係を築いてもらいたいです。あと、池上先生に会えて、とてもうれしかったです」

小島未来記者「福原小6年」戦争をへらすために、もめている島を二つに分けた国があるということですが、小さい島なのに半分に分けたら、もつと小さくな

るから、私は島をいっしょに使つたらいいと思いました。戦争をなくすためには他の国の人たちと仲よくする私たち一人一人の努力が大事ということをおさわりしました。私もこれからいろいろな機会に、自分にできることをしたいと思いました」

関根英瑠麻記者「占谷小4年」じゅぎょうをうけて一番いんしょうにのこつたのは、ちがうしゅうきょうどうしで戦争をするということです。自分が大きくなつたら、先生がおっしゃったように、戦争がおきないようにドイツ語やイタリア語など、さまざまな国の言葉をならつて、世界中の人と友だちになりたいです」

河野友里記者「寺尾小5年」今日の授業を受けて分かったことは、戦争が起きる理由です。その理由は領土やエネルギー、食料の問題です。また戦争は、豊かになりたいという思いや、生きていきたいという思いで起きるといふことがわかりました。そして、よその国との関係をよくするには、信頼が必要だということもわかりました」

土田莉子記者「山田小5年」とてもわかりやすい説明で戦争が起きる原因を学びました。日本に遊びに来た外国人に「日本はいい国だなあ」と言ってもらえるようにすればいいなと思いました」

土田真由香「シニア記者」山田中1年「授業を受けて、みんなが信頼し合える社会をつくることの大切さがわかりました。そういった社会をつくるために、私は海外(中国など)への偏見をなくすように、海外の人と仲良くしたいと思いました」

初の農業体験

ミニ大根を収穫しました



特別授業として初の農業体験が川越総合高校の名細農場で、九月六日、九月二〇日、一〇月二五日の三回ありました。参加者は四年生一二人、五年生三人、六年生三人。

特別授業として初の農業体験が川越総合高校の名細農場で、九月六日、九月二〇日、一〇月二五日の三回ありました。参加者は四年生一二人、五年生三人、六年生三人。

最初の九月六日は、種まきと野菜の収穫をしました。まず、大根の種を畝の二つの穴に入れて、うめました。「なるべく深くほりすぎない」がポイントだそうです。次に川越総合高校の人たちが育てた、まんがんとがらし、ピーマン、なすなどを収穫しました。(増田夢美記者「名細小6年」)

九月二〇日は間引きをし、最後の一〇月二五日は高校生のお兄さんお姉さんの指導で、ミニ大根を一人五本ずつ収穫しました。

大根を水道で洗ったあと、倉庫で高校生による「野菜か果物かを当てるクイズ」がありました。そのあと、農場長の田中忠明先生の手づく

りのトン汁を「ちそう」になりました。

インタビュー

農場長の田中忠明先生

Q 先生が農業の道に進んだ理由は？  
A ・・・、家が農家だったからかな。それで農業高校(総合高校の前身)に進みました。

Q この農業体験学習で何を伝えたいですか。  
A 生きものの命の大切さ、食べるもの大切さを感じてほしかったこと、それと、農業の大変さ、どういうことをしているのかを知ってもらいたいということかな。

さいたま市栄和小4年・見田息吹(みた・いぶき)君  
Q 農業を体験してみてもうでしたか。  
A いままでがんばってきた、収穫できうれしかった。

Q 収穫した大根を、どのようにして食べますか。  
A おでん。好きっていうわけじゃないけれど、自分がつくったやつだから(土田真由香「シニア記者」山田中1年)

☆記者の感想

◇増田記者「とても暑かったけれど、いいけいけんになりました。野菜にもいろいろ育て方があると知って、とても大変だなと感じました」

◇土田莉子記者「山田小5年」農業体験はとても暑かったけど、種まきや野菜のしゅうかくをしました。大好きな川越の青なすを、ふくろいっぱいもらえたのでうれしかったです。家でパスタと肉のほさみあげにして、おいしく食べました」